



撮影 = 齊田 勤  
photos by Saida Tsutomu



ウェルスタイル社長

# 谷生 芳彦

新しいライフスタイルの創造で  
人々を幸せにしていきたい

家族限定で、動画や写真、メッセージを共有できる家族SNS『wellnote(ウェルノート)』を展開。スマートフォンで、お茶の間を持ち運べるサービスとして、シニア層にも人気のアプリになっている

## PROFILE

### たにお・よしひこ

1976年生まれ。2000年3月神戸大学経営学部卒業後、同年4月ゴールドマン・サックス証券入社。大手金融法人担当として日本株式投資の支援業務を担当。その後、事業法人担当となり資金調達や共同投資など、企業の経営・財務支援全般に携わる。10年5月起業のために退社、同年6月ウェルスタイルを創業



サービスの要となるエンジニア会議。開発状況が一目でわかるよう、ホワイトボードで各自の担当と進捗を管理。スピーディな開発を心掛けている





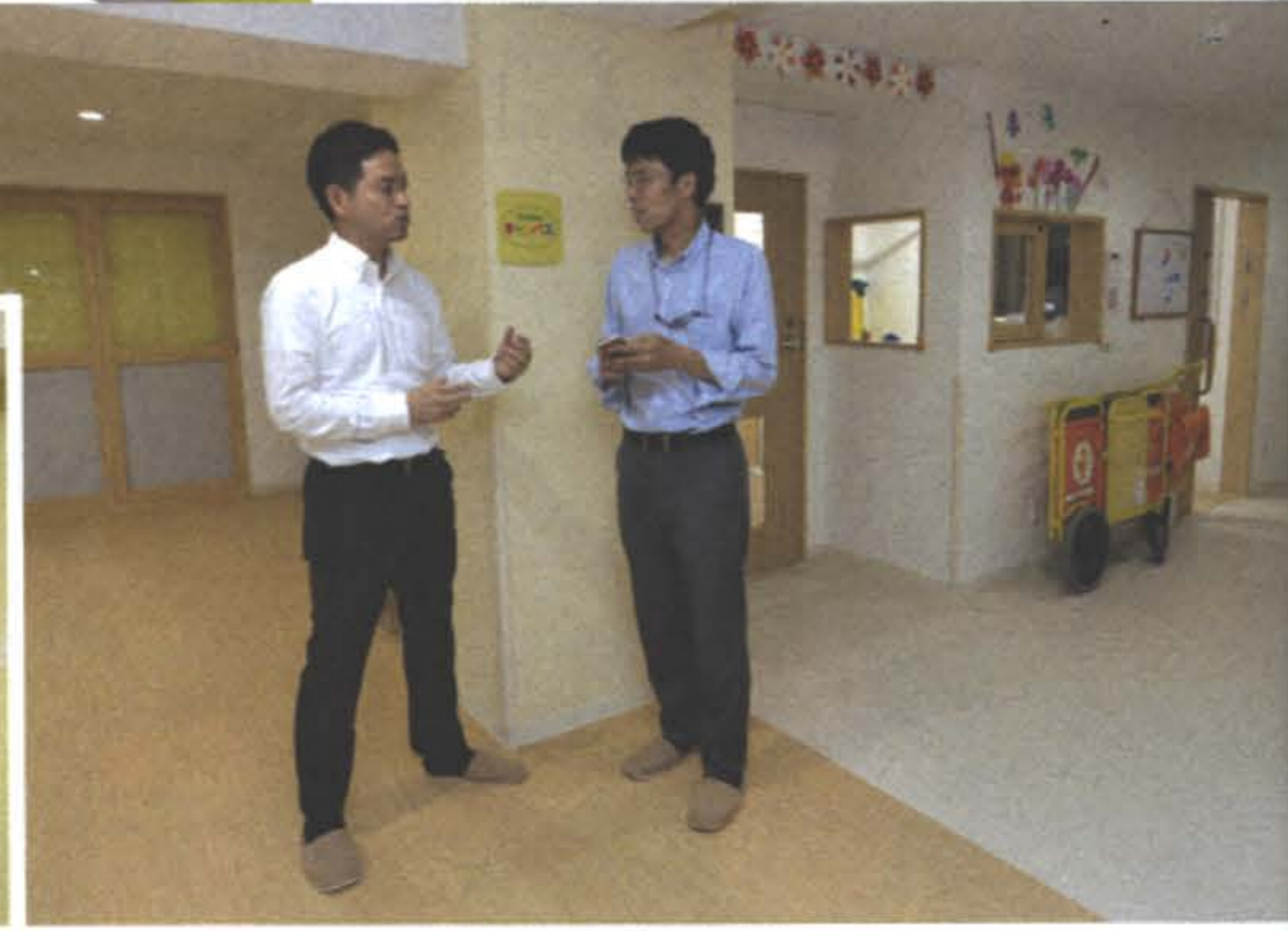
「ウェルノート」はシニア層にも人気が高いため、どの世代でも使いやすい画面づくりに力を入れる。また、子どもの成長過程だけでなく、体重や血圧など家族の健康情報の管理や、子どもを褒めたり応援してあげる「できたねスタンプ」など家族ならではのスタンプも充実させている

「ウェルノート」を通じて「保護者」と「教室」をつなぐ「wellnoteスクール」。このサービスを活用する学研ホールディングスの学童ステーション「学研キャンパス」を視察



風通しの良さと機敏性がベンチャーの強み。ウェルスタイルも社員の距離が近く、アイデアもすぐに具現化できる体制だ

教室にいる児童の様子を写真や動画にメッセージを添えて保護者に配信する「wellnoteスクール」。教室の責任者で、児童の様子を配信している学研ココファン・ナーサリーの運営事業本部・運営支援課の佐々木洋希さんに使い勝手などを訊ねる谷生さん



## 家族の思い出が残っていくサービス 結婚する時などに“プレゼント”として



メールチェックをする谷生さん。プレゼン用の資料を自ら作ることもある



デスクワークが多い仕事柄、社員が身体を動かせるよう、社内にはぶら下がり棒を設置。谷生さんも、肩が凝ったときや気分転換したいときに利用している

の導入が拡大しています。「ウェルノート」の利用者の方々からは、家族の情報を共有することで、離れて暮らす義理の親戚とも親しくなれるという声もたくさんいただきます。ネット上にお茶の間があると、リアルでの親戚、家族関係も深まり、活性化する証しだといえます。当社の夢は「新しいライフスタイルの創造で、人々を幸せに」。

## なので、子どもが独立するときや 渡せる文化を作っていけたらと思っています

ネット上の「お茶の間」でリアルな家族関係も緊密に「ウェルノート」のサービスを考えたきっかけは、子どもが生まれたことでした。日々成長し、変わっていく子どもの姿を離れて暮らす両親に見せたい、と思ったことが始まりです。ただ、FacebookなどのオープンなSNSで子どもの写真や動画を公開することには抵抗感があると考え、家族限定のクローズドなSNS「ウェルノート」を作りました。サービスを始めた5年前はFacebookが普及し始めた頃で、「ウェルノート」の普及も未知数でした。けれども、今では、安心・安全なクローズドなSNSである点や、一生変わらない家族間の情報共有という点が支持されて、直近、会員数も倍増しています。スマホ向けのアプリというと、若者向けのサービスと思われがちですが、孫の元気な様子を見られるため、ユーザーの30%

はおじいちゃん、おばあちゃんなどのシニア層となっています。また、子どもの成長記録だけでなく、家族の日常を写真や動画、メッセージで共有できるサービスなので、「ウェルノート」は、日々のわが家の思い出を残せる場所でもあります。「ウェルノート」を開けば、いつでもどこでも、家にいる感覚を味わえるので、いわば「お茶の間」と「教室」をつなぐ「wellnote スクール」です。共働き世帯が増える中、託児所や保育園にいる子どもの様子を確認できれば、親御さんも安心して働けます。また、教室にとつても、安心・安全をアピールでき、他の教室との差別化にもなります。教室にいる先生が、アプリで写真を撮り、ボタンを押すだけで、手軽に投稿できるので、保育園や幼稚園、学童、塾などで



銀座のApple Storeで「ウェルノート」のセミナーを開催。家族限定SNSはどんな層にもアピールするため、スマホ初心者の関心も高い

幸せな人を増やしたい——。その思いは身近にいる社員に対しても同じ。社員の誕生日に、サブライズのお祝い会をした時の1枚



「しぶやニュー駅伝2015」にウェルスタイルチームで参加。無事、完走し、仲間と記念撮影

この夢を、実現するため、これからも、人々を幸せにするサービスをたくさん世に送り出していきたいと思っています。